

### 大野ダム

由良川水系由良川の大野ダム（京都府北桑田郡美山町）上流域では、台風23号により流域平均最大時間雨量が23.6mmを記録し、総雨量は286.8mmに達した。大野ダムでは、20日17時30分頃にダムへの流入量が500m<sup>3</sup>/sに達したため、流入量の約40%をダムに貯留し、ダムからの放流量を流入量の約60%まで絞り込む洪水調節を開始した。

しかしながら、その後もダムへの流入量が増え続けた結果、20日22時頃の予測では、このまま洪水調節を続け洪水をダムに貯留し続けると、21日2時頃にはダム貯水位は最高水位を超え、最悪、ダムから洪水が溢れ出すことが予測されたことから、通常であれば、ダムからの溢水による下流での急激な水位上昇を防ぐため、ダムへの流入量をそのまま下流へ放流する操作（ただし書き操作）に漸次移行していくところであったが、由良川下流部でバスが孤立していることが判明するなど、ダムからの放流による重大な影響が懸念される状況であった。そのため、万一のダムの溢水のおそれとの兼ね合いなど、難しい判断を迫られたが、人命救助を最優先して、ただし書き操作への移行を見合わせることにした。この間、バス孤立地点や綾部、福知山の観測点における由良川の10分ごとの水位のデータを監視するとともに、今後のダム貯水位を逐次シミュレーションするなど、様々な情報を総合的に検討しながら貯留を継続した。なお、この対応にあたっては、最悪の場合、下流への急激な水位上昇が発生する可能性があったため、関係機関への綿密な連携のもと行った。

その後、降雨が治まりダム流入量も緩やかになり、ダムからの溢水も回避されたことから、さらに残りのダム容量を最大限活用するため、放流量を絞り込み、21日12時頃までに洪水調節を続け、最終的には約1,773万m<sup>3</sup>の洪水をダムに貯留した。

バスの乗客の皆さんが、想像を絶する状況の中で頑張られたことにより、翌早朝、自衛隊や府警などに全員無事救出される結果となった。

表 資料7-7-4 大野ダムの洪水調節

流域平均 雨量	時間最大	24mm	
	総雨量	287mm	
最大流入量	1,186m <sup>3</sup> /s	10/21 0:45	
最大流入量に対する調節量	498m <sup>3</sup> /s	最大流入量の約42%をカット	
最大放流量	723m <sup>3</sup> /s	10/21 4:00	
調節容量	1,773万m <sup>3</sup>		

図 資料7-7-5 大野ダム位置

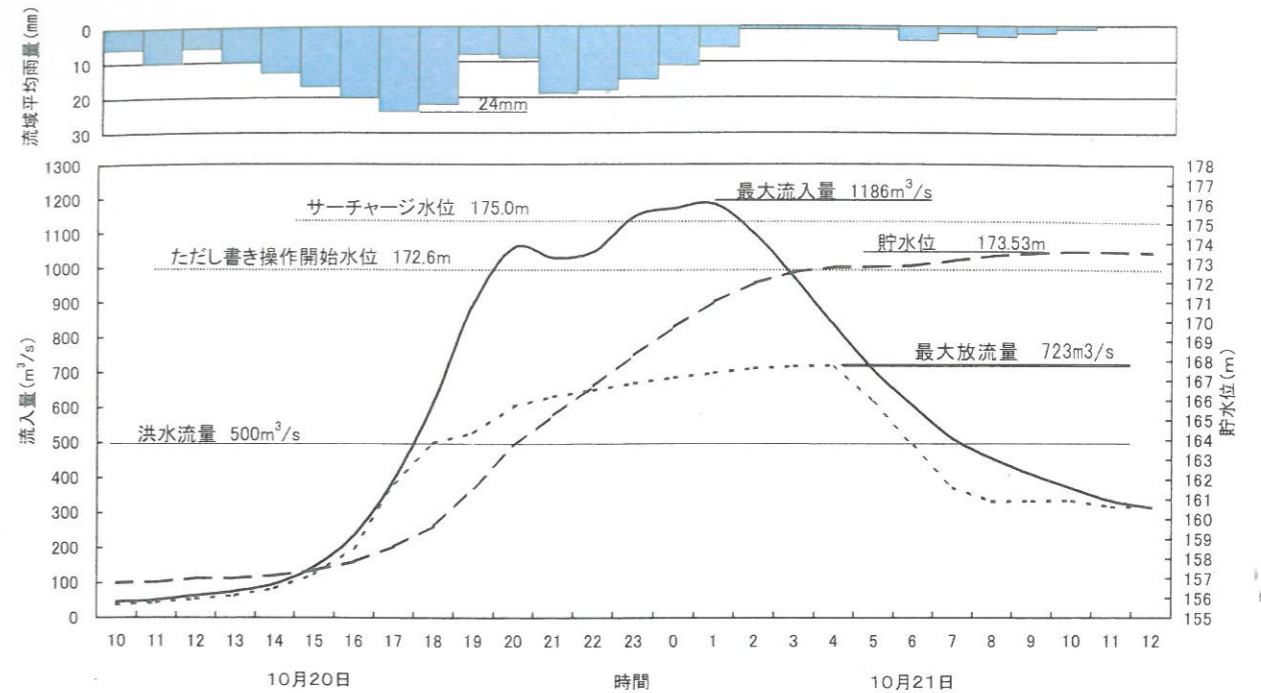


図 資料7-7-6 大野ダムの洪水調節状況(10月19日~10月21)

今回の出水では、大野ダム下流の綾部基準点において、警戒水位3.5mを3m以上も上回る最高水位6.87mを記録したが、大野ダムがなかった場合は更に水位が0.57mほど高くなっていただものと想定される。

由良川 綾部基準点(丹波大橋下流約200m)での水位

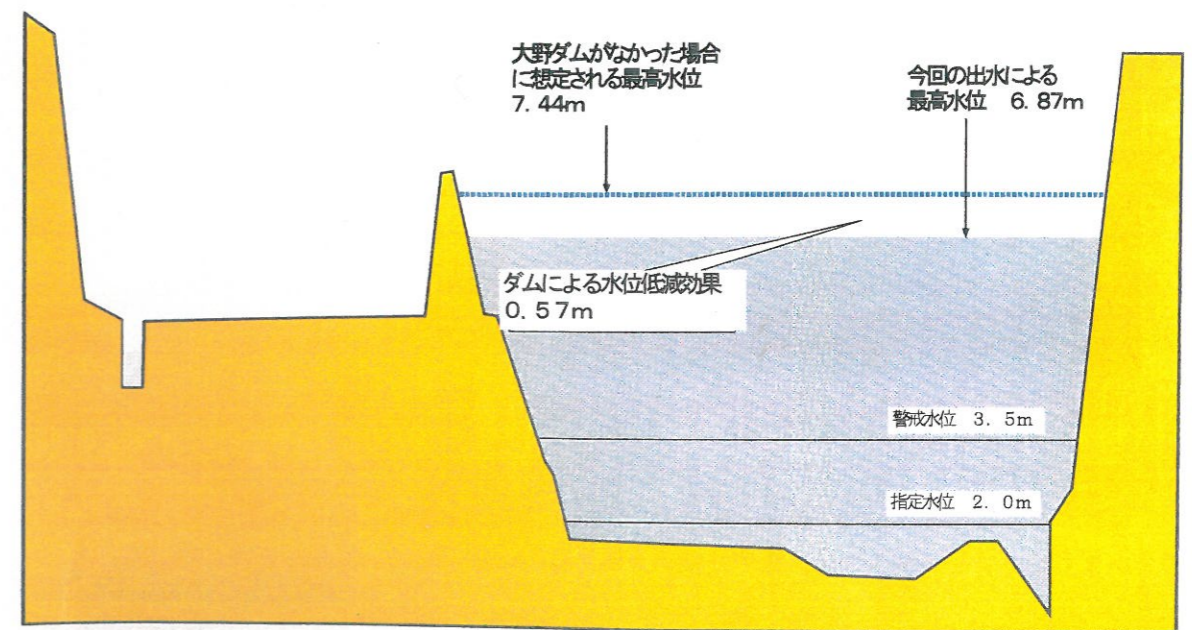


図 資料7-7-7 大野ダムによる水位低減効果